

農業土木通信

5月

1. 新入生敷地内散策・測量実習開始



新入生のために校内の施設や農場などのモニタリングの説明会が4月19日5～6校時に開催されました。生徒40人は真新しい実習服に袖を通し岩農の施設を早く覚えようと熱

心に聞いていました。

また、測量や専攻班などの実習も実施されております。



2. 年度始総会・意見発表大会

5月8日（月）農業土木工学科の全生徒が一堂に会し、年度始総会・意見発表大会が開催されました。各学年から3人（発表）ずつ計9名選出され、地域の農業や環境、自分の将来に関する事などの意見を発表しました。発表者は緊張しながらも堂々と発表しました。そして、聴衆者もそれぞれの発表を自分の視点と照らし合わせながら採点をしていました。代表者2名は5月16日（火）に開催される校内意見発表大会に出場します。



3. 北海道開発局・北海土地改良区・岩見沢農業高校パートナーシップ協定締結式

5月15日（月）今年で10年目にもなる三者の締結式が本校校長室で行われました。今年も技術者の話や現場見学、施設見学が各学年ごとに行われます。



1. 雪山完成

平成12年頃から、継続して取り組みを続けている「利雪研究」。これは、冬に降った雪を夏まで保存し、暑い夏に冷却・冷房エネルギーとして利用します。各種野菜栽培をはじめ、栽培施設の夏季の温度降下などにより、高品質農産物栽培に貢献する技術を目指し、研究活動を行っています。農業にも地球環境にもやさしい取り組みです。今年も冬の間本校敷地内に降った雪を集めて大規模な雪山を作り、農業土木工学科1年生（現2年生）が断熱ための籾殻被覆実習を行いました。みんなで力を合わせて雪山が夏まで溶けて無くなることのないよう、丁寧に、また意欲的に実習に取り組んでいました。



2. 新1年生が入学

4月11日は「岩農入学式」。農業土木工学科にも40名の新入生が、少し緊張の面持ちで入学しました。今年度は男子ばかりだった本学科に、6名の女生徒が入学し、学科の雰囲気はどのように変化するかというのも楽しみです。新入生それぞれが、農業土木の専門科目を3年間学びながら、どのように考え、どのように成長し、どのような進路実現をしていくのか期待が膨らみます。

